

令和3年5月11日（火）保健福祉委員会

一 江差高等看護学院について

報告のありました江差高等看護学院を巡る諸問題の対応についてですが、本道における今後の看護師養成にも大きく関わってくる問題ですので、以下、何点か伺います。

（一） 卒業者等の状況について

江差高等看護学院では、卒業者数が入学者数の7割程度にとどまっていることや、1学年の留年者が多いと聞いています。

道立では、江差のほかに旭川・紋別・網走の高等看護学院がありますが、准看護師から要請を行う網走高等看護学院を除く他の2校と比較して、江差高等看護学院の入学者に対する卒業生等の状況はどのようになっているのか、このことに対する道の受け止めと併せて伺います。

（答弁：地域医療推進局医務薬務課看護政策担当課長

田原良英 ）

・道立高等看護学院4校のうち、3年過程の旭川高看、紋別高看、江差高看における平成26年度以降5年間の入学者数に対する卒業生の割合順に、約87%、約83%、約75%。直近5年間の留年者の割合は、江差高看については、旭川高看に比べ、高い状況。

・道としては、地域の期待に応えるためにも、入学制度や運営のあり方などについて、見直しが必要と考えている。

(二) 課題等について

他の学院と比較して退学者等が多いという状況は、江差高等看護学院の学校力、学生たちを育てる力が十分機能していないということ、そのことへの学生の不満などが今回のような問題に繋がる下地としてあったとも考えられます。

道内4カ所の高等看護学院の将来のあり方を検討するため、平成26年に『道立高等看護学院のあり方検討会議』が庁内に設置され、現状や課題、方向性などが平成27年度と令和元年度に取りまとめられています。

このような過程において、江差高等看護学院の現状や課題、評価などはどのように把握されていたのか、また、学院からの相談や指導等については、どのように対応することになっているのか、伺います。

(答弁：地域医療推進局医務薬務課看護政策担当課長

田原良英)

・平成27年度及び令和元年度に取りまとめた報告書では、若年人口の減少や学生の大学志向、近隣圏域での民間養成所の新設等を背景に、入学者のほか、実習施設や専任教員の確保が課題。

当面の方向性は、圏域内で看護師の不足が見込まれることから、入学者の確保に努めつつ、道立施設として、看護師の養成を続ける必要があるとの評価。

・学院からの相談や指導等については、4高看合同の学院長・副学院長会議の場を活用し、互いの取組を情報共有し、課題等の解決を図っている。

養成所等指導調査実態要領等に基づき、当課職員が定期的に赴いた際、学院運営上、必要な助言や指導等を行っている。

(三) 教職員の任用状況等について

高等看護学院の教職員の任用や異動等の状況についてですが、道立高等看護学院全体と江差高等看護学院の近年の任用や異動等の状況はどのようになっているのか、また、学院の活性化に向けてどのような対策が講じられているのか、併せて伺います。

(答弁：地域医療推進局医務薬務課看護政策担当課長

田原良英)

・平成29年度からの直近5年間における道立高看の教員の採用者数は、4校で19名、うち江差高看は、8名。

欠員や退職の状況等を踏まえ、定期的な人事異動も行っているが、全道的に専任教員の確保が難しい中、各高看では欠員が続いている。

・道では、教員にとって魅力ある職場となるよう専任教員のキャリア研修や看護技術向上研修などに参加する機会を確保するほか、江差高看においては、振興局や道立病院と連携し、地域の高校生に看護の仕事の魅力を伝える『檜山塾』を開催するなど、地域と一体となって、学院のイメージアップにも取り組んでいる。

(四) 今後の取組について

今後、教員のハラスメントに係る第三者による調査や、学校運営の適正化に向けた取組が進められるとのことですが、何よりも、学生や保護者の方々の信頼回復が重要と考えます。

道では、コロナ禍の難しい状況の中で、学院の信頼回復に向けてどのように取組を進め、学生が授業や実習に専念できるよう、どう対応していく考えなのか、伺います。

(答弁：保健福祉部長 三瓶 徹)

・地域における看護職員不足と偏在を解消するためにも、道立高看護の役割は重要であり、江差高看をはじめ、道立高看において、学生が安心して、勉学に集中できる環境を整備する必要がある。

・道では、これまでの学生や教員などに対する聞き取りなどに加え、今後、第三者による調査を実施し、ハラスメントの事実関係を確認した上で、必要な対応を

行うほか、面談機会の充実などを通じ、透明性の高い学院運営に努める。

保健・医療・福祉分野の有識者の方々からご意見も伺い、ハラスメント等の事案に迅速に対応できる体制や学院生活全般にわたって相談できる環境を確保して、学生に寄り添った、学院の運営が行われるよう、取り組む。